

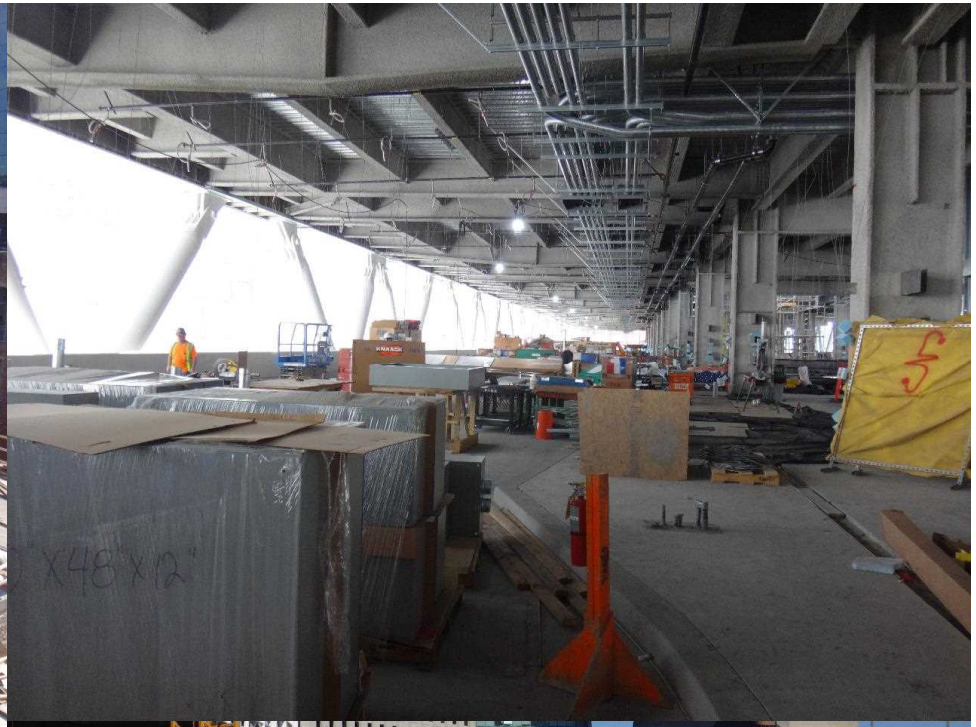
# 建設産業政策会議

## 建設業で働くことの魅力 に関する議論のたたき台

芝浦工業大学建築工学科

教授 蟹澤宏剛

kani@sic.shibaura-it.ac.jp



金曜日 午後3時30分  
閑散とした現場  
本国の職人



# 建設業で働くことの魅力

- 自己裁量が大きい
- 働いただけ稼げる、稼ぎたい分だけ働くことができる柔軟性（仕事が確保でき、祝祭日に現場が休みなら）
- 自己研鑽が報われる、将来の目標が立てられる（適切な評価制度があれば）
- 高評価になれば稼げる（ダンピングや搾取がなければ）

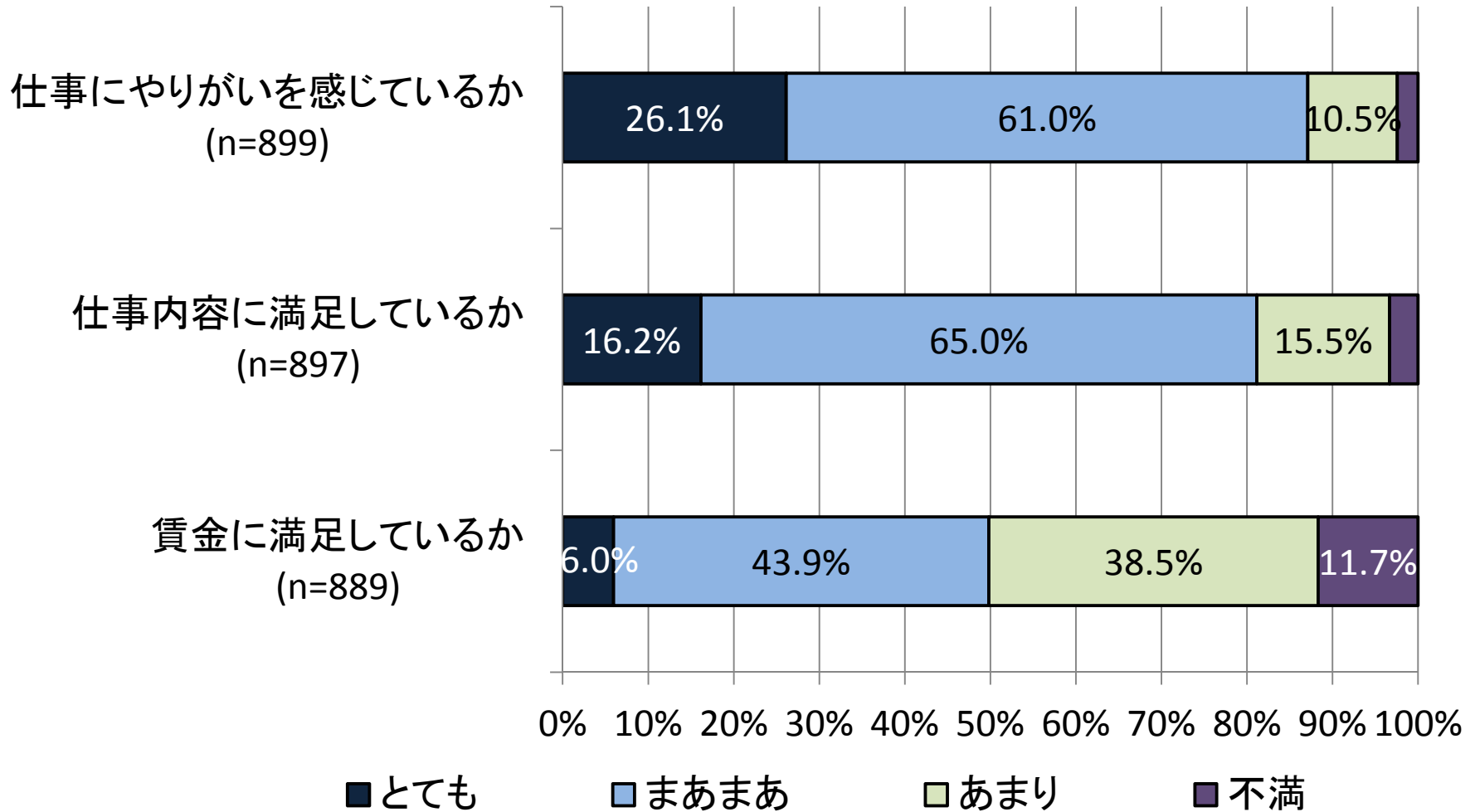
# 建設業で働くこと不安

- 体を壊したら働けない、体力が落ちれば収入も落ちる
- 稼ぎには限度がある

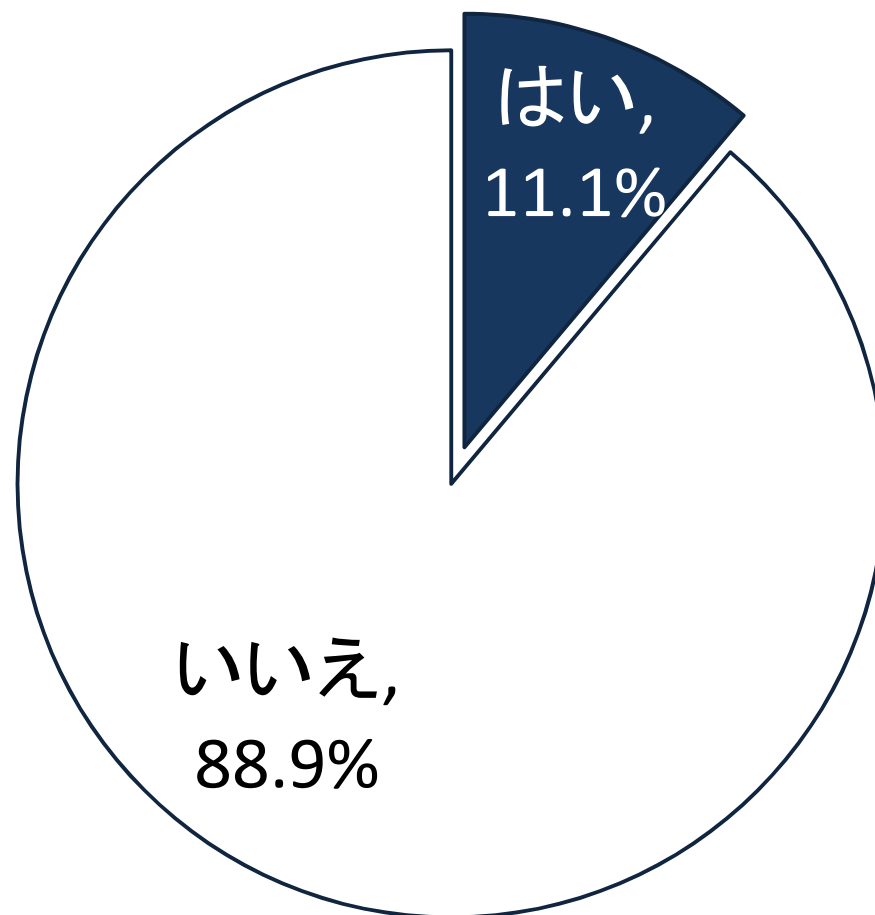
# 魅力ある産業とするための働き方に関する課題

- 体力のピークが賃金のピークである現状を打破するための検討(能力評価のあり方など)
- 休日の確保や長時間労働を軽減することを前提とした原資についての検討(特急料金、繁忙期料金の設定など)
- 生産性向上(稼働率向上)のための具体的検討(職種や作業の再編、多能工(マルチクラフター)のありかた)
- 日給月給という働き方の是非について、労働法の観点も含めた検討(応援や常用精算を含む)
- 同様に、一人親方の労働者性(事業者性)、正確な定義(偽装請負との切り分け)についての検討
- 何割の技能者を日本人で確保するかの目標についての検討

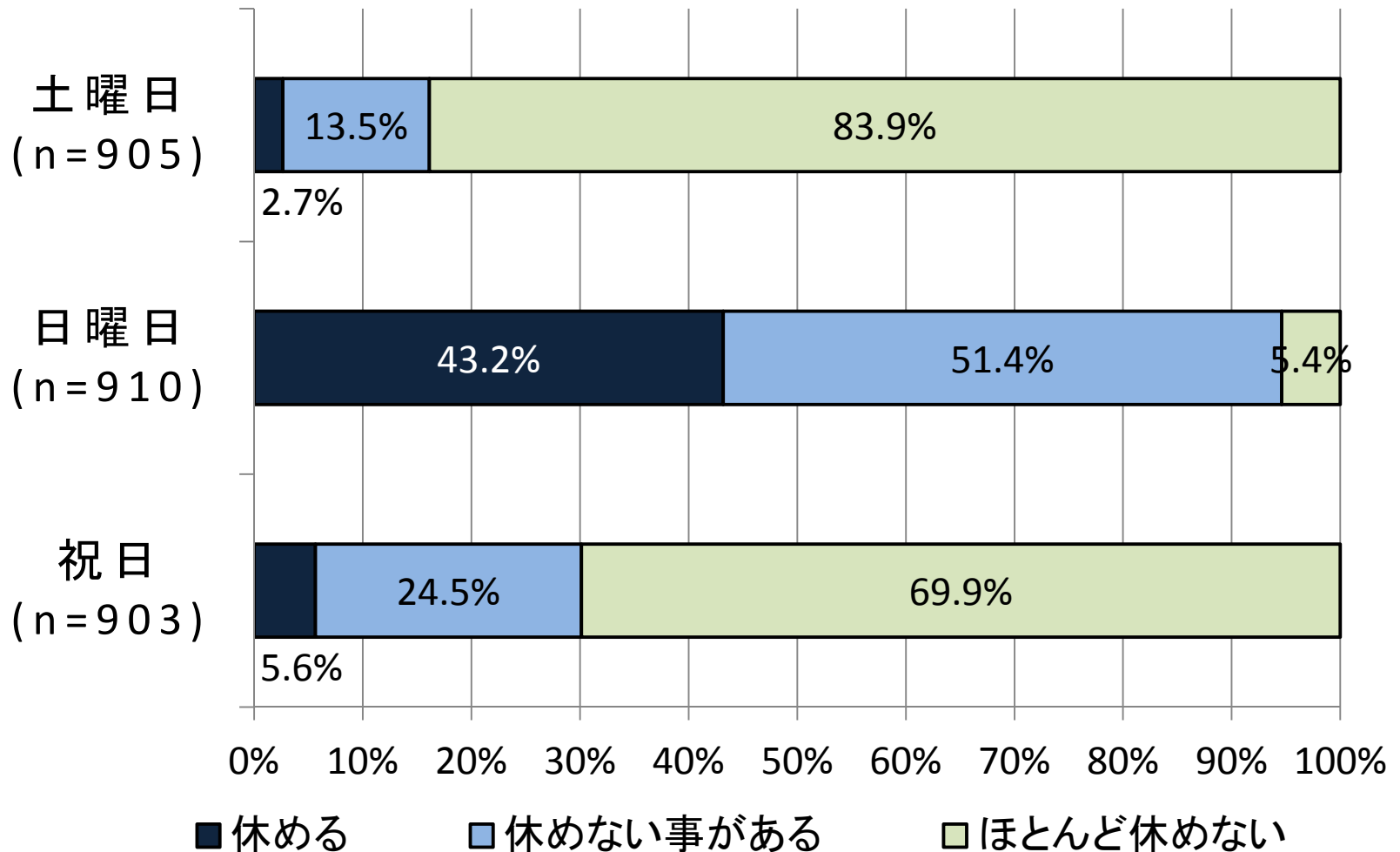
# 職長の意識



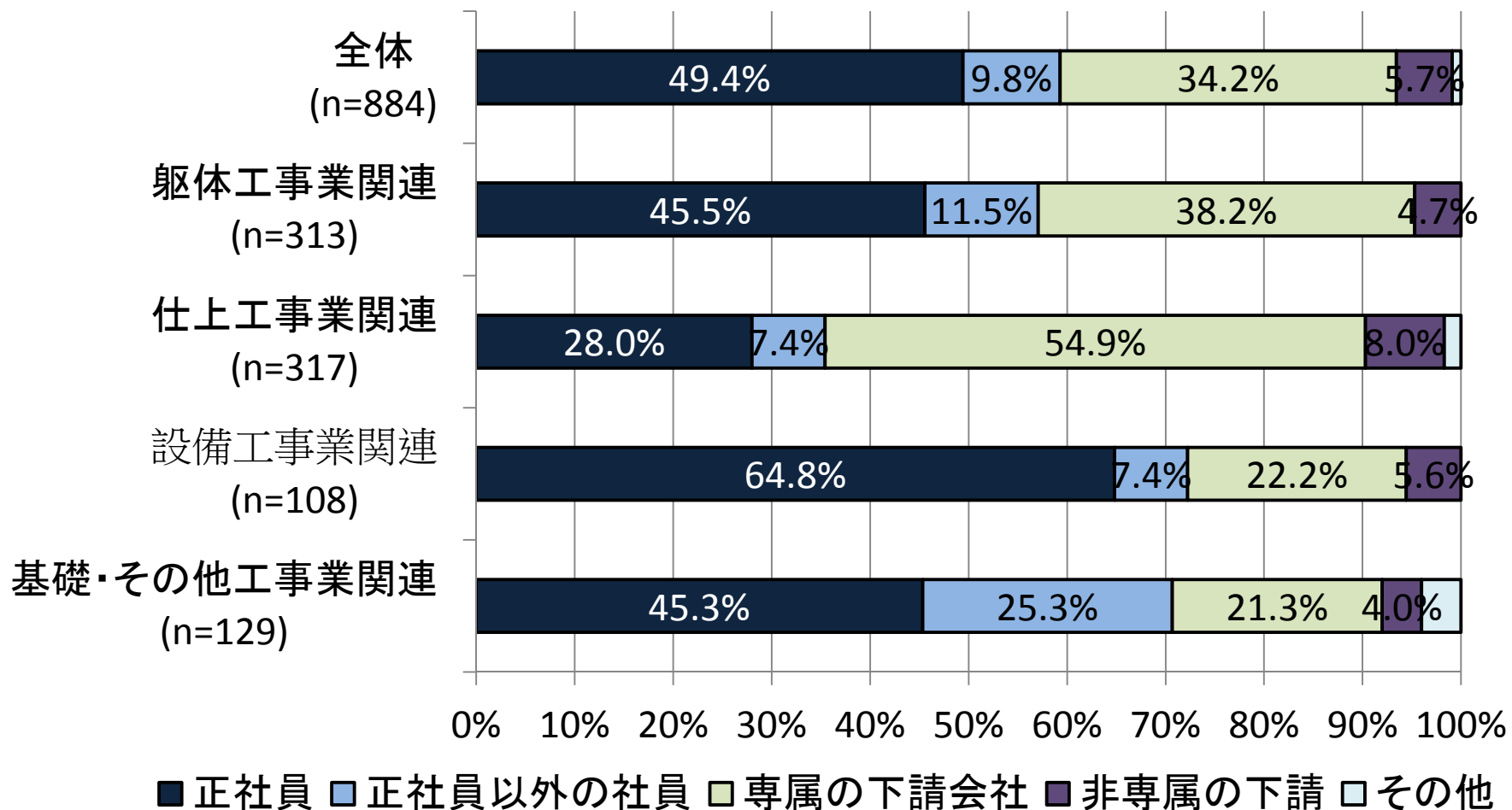
# 子供に勧められるか



# 休日の取得状況



# 職長の処遇（ヘルメット記載会社との関係）



芝浦工業大学 蟹澤研究室  
2015年度 大手ゼネコン職長実態調査より